

2024年5月18日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

1. 概要

歩行名称	東北東ブロック3 (大間崎～小田野沢浜)
歩行区間	[第2回未歩行区間] スタート地点：川内町まりんビーチ→ゴール地点：佐井村長後 [第4回新規歩行区間] スタート地点：大間崎→ゴール地点：小田野沢浜
実施期間	2023年10月16日(月)～10月24日(水)
全歩行距離	総歩行距離 115.7km ○第4回新規歩行区間の歩行距離 89.4km [6日間] ○第2回未歩行区間の歩行距離 26.3km [2日間]

2. メンバー表

No	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数・歩行期間	備考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	66	8日：10/17～24	ワングルOB24期
2	運転・記録	笠井 浩	61	8日：10/17～24	坂本徹の所属山岳会OB
3	記録	笠井 初子	64	6日：10/19～24	坂本徹の所属山岳会OB
4	記録	味沢 俊治	67	8日：10/17～24	坂本徹の大学1期先輩
5	運転・記録	森 正昭	81	3日：10/19～21	ワングルOB9期
6	運転・記録	木下 隆史	65	6日：10/19～24	ワングルOB24期
7	記録	坂本 和子	60	6日：10/19～24	坂本徹の所属山岳会OB
8	協賛参加：歩行サポート・運転	成田 茂則	78	8日：10/17～24	青森勤労者山岳会運営委員長
9	協賛参加	對馬 淑子	74	3日：10/17～19	青森勤労者山岳会会員
10	協賛参加	辻村 眞佐子	75	3日：10/17～19	青森勤労者山岳会会員
11	協賛参加：運転	横垣 成年	63	3日：10/17～19	青森勤労者山岳会会員

3. 歩行の概要 (10月16日青森市 日の出時刻5時49分 日の入時刻16時55分)

	月 日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	10/16 (月)	JR 東日本レンタリース青森営業所 13時00分集合⇒大湊水源地公園 (散策) 《宿泊》むつ市 ホテルフォルクローロ大湊		
2	10/17 (火)	川内町まりんビーチ ← 川内川溪谷遊歩道駐車場 《宿泊》佐井村 旅館福寿荘	12.0 km	メンバー表記載の3人と協賛参加4人(成田、對馬、辻村、横垣)
3	10/18 (水)	川内川溪谷遊歩道駐車場→佐井村 長後 歩行後に仏ヶ浦を遊歩道により観光 《宿泊》佐井村 民宿みやの	14.3 km	
4	10/19 (木)	大間崎 ← 風間浦村役場 《宿泊》下風呂温泉 坪田旅館	10.3 km	メンバー表記載の7人と協賛参加4人(成田、對馬、辻村、横垣)
5	10/20 (金)	風間浦村役場→ 下風呂温泉 歩行後に有志で恐山観光 《宿泊》下風呂温泉 坪田旅館・民宿菅原	9.5 km	
6	10/21 (土)	下風呂温泉 → むつ科学技術館 《宿泊》むつ市 ホテルフォルクローロ大湊	19.2 km	メンバー表記載の6人と協賛参加1人(成田)
7	10/22 (日)	むつ科学技術館 → 尻屋崎ビジターハウス 《宿泊》むつ市 ホテルフォルクローロ大湊	21.6 km	
8	10/23 (月)	尻屋崎ビジターハウス→尻屋崎灯台→尻屋崎ビジターハウス (9.1 km) 東通村岩屋ユラズエナジー事業所近くの三差路(荷倉場) ←→ 猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場 (10.8 km) 《宿泊》むつ市 ホテルフォルクローロ大湊	19.9 km	
9	10・24 (火)	猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場→猿ヶ森砂丘→小田野 沢漁港⇒新青森駅 新青森駅 17:22 発 (はやぶさ 40号) ⇒東京 駅 20:32 着	8.9 km	

4. 参加費・費用

(1) 参加者延べ日数 8日×3人+6日×3人+3日×1人=45人日 歩く会会費(参加費)合計 4,500円

(2) 一人当たりの費用(居住地から青森駅までの交通費を除く) 86,565円~95,565円

① レンタカー借料・保険代 レンタカー2台: 54,120円+34,010円=88,130円

3日間参加者 8,300円、6日間参加者 11,620円、8日間参加者 14,940円

レンタカー・成田車ガソリン代(総額ガソリン代 7,200円)

3日間参加者 1,400円、6及び8日間参加者 2,600円

- ② 宿泊料
- | | |
|--|----------|
| 1泊目 (10月16日) : フォルクローロ大湊 (1泊朝食付) シングル利用 (6人) | 6,420円/人 |
| 2泊目 (10月17日) : 旅館福寿荘 (1泊2食付) 2又は3人部屋 (2人) | 7,500円/人 |
| 3泊目 (10月18日) : 民宿みやの (1泊2食付き) 2又は3人部屋 | 8,000円/人 |
| 4泊目 (10月19日) : 坪田旅館 (1泊2食付き) 2人部屋 | 8,950円/人 |
| 5泊目 (10月20日) : 坪田旅館・菅原 (1泊2食付き) 2人部屋 | 9,000円/人 |
| 6泊目 (10月21日) : フォルクローロ大湊 (1泊朝食付き) シングル・ツイン | 6,420円/人 |
| 7泊目 (10月22日) : フォルクローロ大湊 (1泊朝食付き) シングル・ツイン | 6,420円/人 |
| 8泊目 (10月23日) : フォルクローロ大湊 (1泊朝食付き) シングル・ツイン | 6,420円/人 |

宿泊料の合計 59,130円 (シングル・ツイン利用者)

- ③ 飲食代
- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1日目 (10月16日夕食代) | : 3,750円~5,450円/人 |
| 2日目 (10月17日夕食時飲み物代) | : 500円/人 |
| 3日目 (10月18日夕食時飲み物代) | : ゼロ (負担なし) |
| 4日目 (10月19日夕食時飲み物代) | : ゼロ (負担なし) |
| 5日目 (10月20日夕食時飲み物代) | : 300円/人 |
| 6日目 (10月21日夕食代) | : 3,100円~5,200円/人 |
| 7日目 (10月22日夕食代) | : 2,500円~4,200円/人 |
| 8日目 (10月23日夕食代) | : 3,100円~4,950円/人 |

飲食代の合計 13,250円~20,600円

④ 資料・通信代 1,000円

⑤ 報告・写真記録集 1,500円

⑥ コロナ抗原検査キット代 300円

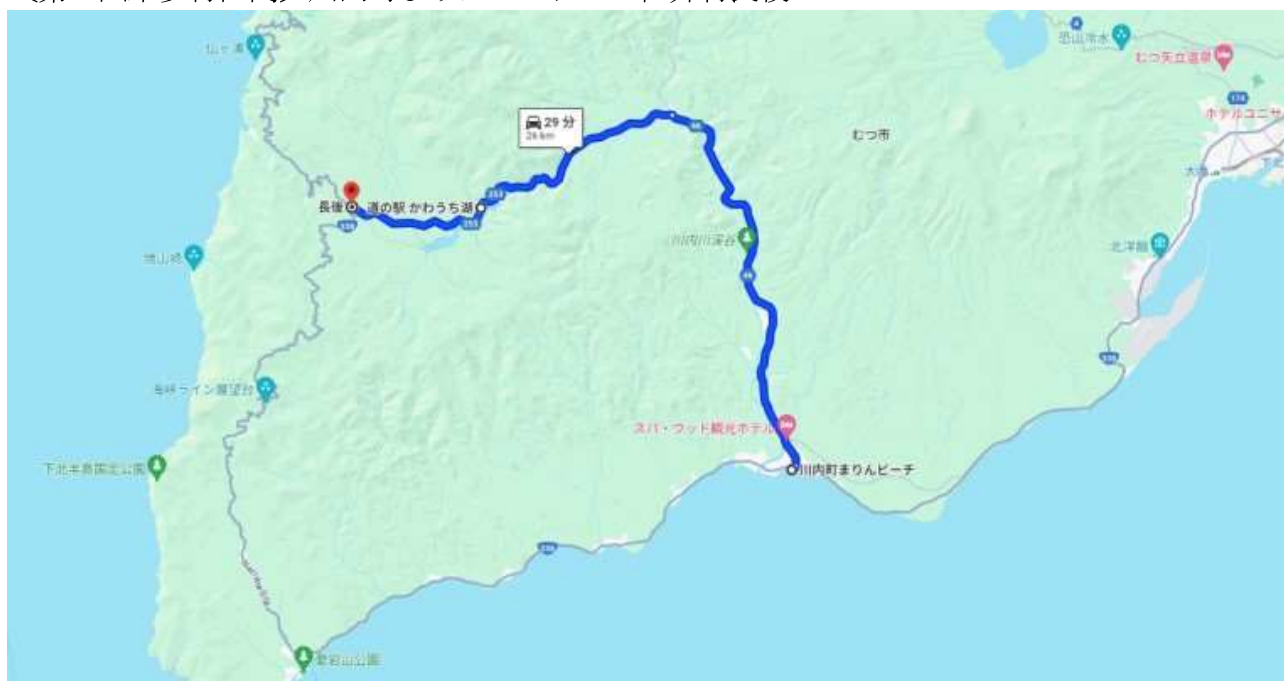
①~⑥の総計 3日間参加者 47,450円 6日間参加者 71,230円~76,880円

8日間参加者 92,720円~100,070円

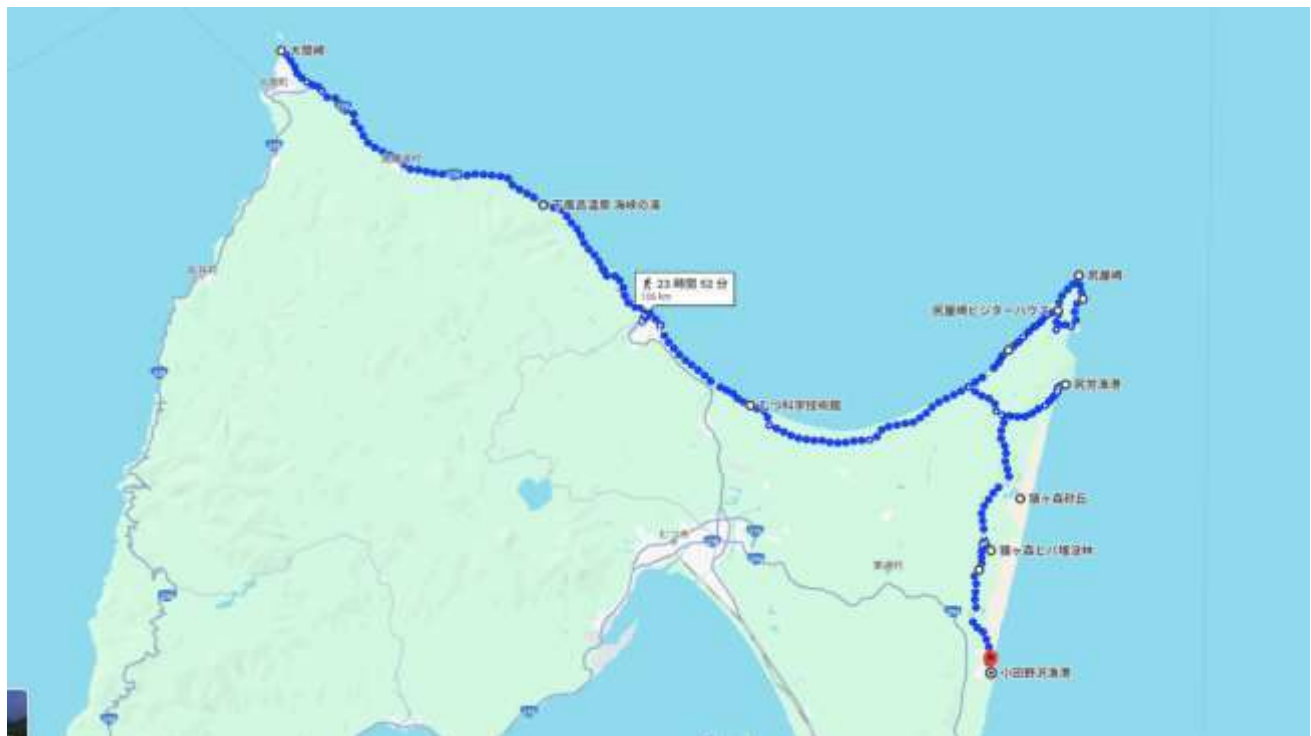
5. 歩き方

(1) 歩行ルート概要地図

[第2回未歩行区間] 川内町まりんビーチ → 佐井村長後



[第4回新規歩行区間] スタート地点：大間崎 →ゴール地点 小田野沢漁港



(2) 歩行方法と班編成

- ① 歩行の効率化のためレンタカーと協賛山岳会参加者のマイカーを利用しました。
- ② 全員（途中参加者・一部参加者を除く）が大間崎から小田野沢漁港までの 89 km（参考：第 1 回歩行 131 km、第 2 回歩行 94 km、第 3 回歩行 109 km）を歩行しました。また、第 2 回歩行未歩行区間（歩行距離 26 km）を歩行しました。
- ③ 自然災害による通行止め区間があったため第 2 回歩行で未歩行区間については、前日（10 月 16 日）にむつ市に移動して、翌日と翌々日の 2 日間で計画どおり歩行できました。
- ④ 未歩行区間、新規歩行区間の歩行では、すべて目的地に車 1 台を配車し、全員で出発地点から目的地に向って歩行しました。目的地到達後に出発地点にある車を回収し、目的地に戻って車に全員乗車し、宿舎に移動しました。
- ⑤ 地理院地図と現地の状況から歩行可能な砂浜・岩礁海岸などを歩きました。
- ⑥ 歩行ルート上にある名所旧跡に立ち寄りました。
- ⑦ 宿舎出発は 8 時 00 分、歩行終了は 15 時～16 時を目途（名所旧跡立ち寄り時間を含めて 1 時間約 3 kmの歩行速度）として行動しました。

6. リーダー報告：坂本 徹

(1) 第 4 回歩行のコンセプト（企画・実施にあたって）

- ① 第 1 回歩行は実施期間 7 日間（うち歩行日数は 5.5 日）で、131 km歩行（初日は移動と青森市内観光、2 日目から 6 日目は 1 日 18 km～26 km歩行、7 日目午前 12 km歩行して午後新青森駅に移動・帰途に）しました。1 日の歩行距離が長くて余裕がなかったとの参加者意見を踏まえて、第 2 回歩行以降は 1 日の歩行距離を 20 km程度としました。
第 4 回歩行では、第 2 回歩行の未歩行区間 26 kmがあるため 2 日間かけて実施しました。このため、全体の歩行期間が 9 日間となりました。
- ② 各日の歩行区間・距離は、現地で歩行状況から前日に柔軟に設定変更を行う計画としました。雨天や歩行区間変更などにより、ゴール地点に到達できない場合は、次回以降の歩行に繰り越しとしていま

した。今回歩行では、4日間は雨天となりました。このため、新規歩行区間の初日19日の歩行（大間崎→風間浦村下風呂温泉：歩行距離19.3km）を2日間で歩行することに変更しました。

変更の結果、20日の行動が昼に目的地に到着したことから、オプション観光として「日本三大霊場の恐山」に希望者を募って行くことができました。

- ③ 歩行区間が9日間と長くなったことから、新規歩行区間の19日（前日に現地入り）から歩行参加できるよう計画設定した結果、青森県歩行に初参加の森さんと木下さんを含む4名の参加が実現しました。
- ④ 2023年5月8日にコロナ感染症の感染症法上の取り扱いが2類相当から5類に移行されましたが、引き続き感染リスクが継続していました。このため、コロナ感染防止対策として、お互い安心安全に交流できるように、抗原検査キットによりコロナ抗原検査（自身で検査を実施して所要時間10分程度で結果判明）を歩行実施初日に行い、陰性確認をしました。



日本最大級の猿ヶ森砂丘を南端から望む

（2）第4回歩行を実施して

青森県海岸線第4回歩行は、第1回・第2回・第3回歩行と同様に、青森勤労者山岳会の協賛により青森県海岸線踏破プロジェクト（第4回歩行）として実施しました。

歩行参加者は第1回・第2回・第3回歩行経験者が多いため、歩事情を理解されていることからスムーズな行動ができました。今回歩行では、森さんと木下さんが新しく加わって仲間の輪が広がり、新鮮な気持ちで交流を深めました。夕食時交流会では、参加者から職務経験・社会活動・趣味活動から得られた情報提供・課題提起を行ってもらって議論しました。時には激論になる場面もあり、有意義な時間を過ごせたと考えています。

今回歩行したルートは、私が青森市在住時に幾度か車で通行しましたが、歩行目線で見ると美しい海岸線風景が数多くあり、私にとって青森県の新発見・再発見となりました。特に新発見として、津軽海峡に面した北部海岸（東西8kmにわたって広がる迫力の大地層）と下北半島の太平洋側の猿ヶ森砂丘（南北17km、東西最大2kmにわたって広がる日本最大級の砂丘。防衛省の試験場であるためほとんどが立入不可）は圧巻でした。

(3) 任意参加の企画（10月15日紅葉の八甲田山登山）について

第4回歩行実施にあたって、任意参加の企画として「10月15日紅葉の八甲田山登山」を設定しました。私は青森市在住時（1998年から2002年）に八甲田山を春夏秋冬に頻繁に訪れており、今回は、紅葉の美しい八甲田山、特に毛無岱の紅葉を見る良い機会であるため企画しました。



八甲田山毛無岱の紅葉

参加者は、味沢俊治さんと坂本徹の2人となりましたが、青森勤労者山岳会会員であり、旧知の對馬和榮さんにご一緒いただき、マイカーに同乗させていただきました。更に、夜の飲食にもご一緒いただき、登山・山岳写真談義で盛り上がりました。對馬和榮さんは、傑作の山岳写真を撮影するため頻繁に八甲田山に行かれるとのことでした。長い空白期間を感じる事なく、旧交を温めました。

10月15日頃の八甲田山の紅葉は、平年であれば見頃後半となりますが、今年は残暑の影響で幸運にも見頃の時期となっていました。日曜日であったため登山口の駐車場は満車に近い状況でしたが、上手く駐車できて、八甲田山の紅葉を堪能できました。私にとって25年振りの八甲田山登山となりました。



八甲田山頂にて



毛無岱と岩木山遠望



紅葉と南八甲田



立ち枯れた樹木と紅葉

<行動概要>

① 10月14日（土）

居住地から青森駅に移動、東横イン青森駅前のロビーで合流。津軽三味線の生演奏を聴きながら夕食できる飲食店は満席で予約不可。今後の夕食は海の幸が多いため、焼き肉店で飲食した。

② 10月15日（日）

7時30分東横イン青森駅前を7時30分に出発。登山口駐車場（酸ヶ湯温泉）8時20分出発、→下毛無岱→上毛無岱→大岳鞍部避難小屋→八甲田大岳 11:30→仙人岱→登山口駐車場 13時50分着。

17時30分から東横イン青森近くの飲食店「団欒青森駅前店」にて懇親会、10月15日は味澤さんの誕生日で、飲食店にネット予約で事前連絡していたため、飲食店から誕生日プレゼントとして特別デザートが振舞われた。

7. 歩行の詳細

(1) 1日目：10月16日（月）天気：曇りのち晴れ 記録：坂本 徹

JR 東日本レンタリース青森営業所 13時10分に集合である。

八甲田を登山した2人は午前中個人行動。味澤さんは、市街はずれのイオンタウンの映画館で映画鑑賞、坂本は青森居住時に住んでいた社宅や周辺地域の散策をしました。

笠井さんは、松本駅7:10発の電車に乗って、青森駅に12:53到着しました。

青森勤労者山岳会の成田さん、對馬さん、辻村さんも集合し、予定どおりレンタカー（ホンダ フィット）と成田さんの車で出発しました。ホテルチェックインには早いため、味澤さんの提案により大湊の水源池公園に行くことになりました（15時30分到着）。水源池公園は河岸段丘上にありますが、旧大湊水源池水道施設があり、石積づくりの日本最古のアーチ式ダムでした。1902年から1910年にかけて、旧海軍が軍艦の水を確保するために整備したものでした。東北地方で最初に建設された近代水道施設で、歴史的価値と建設技術が非常に高いと評価され、重要文化財指定を受けています。



石積づくりの日本最古のアーチ式ダム



ダムの下流を望む



水源池大橋を見上げる



アーチ式ダム全景



水源池公園内の池



水源池公園公園を散策



隣接する「海望館」の展望台

水源池公園の散策ルートのをんびりと散策しました。隣接する「海望館」の展望台にも上がり、陸奥湾を見下ろすこともできました。。

大湊駅隣のホテルフォルクロロ大湊にチェックイン。18時30分～20時40分 ホテル近くの「京華」にて、夕食&交流会。近況とマイブームについて参加者全員（6人）から披露いただきました。



ホテル近くの「京華」にて、夕食&交流会

(2) 2日目：10月17日(火) 天気：晴れ一時雨 記録：味沢 俊治

川内川溪谷遊歩道駐車場—<12.0 km>→川内町まりんビーチ

7時50分集合。小雨。横垣さんのピックアップトラックが到着。成田さんの一台を加え、都合3台に。出発直前、笠井さんがレンタカー左前輪のパンクを発見、このため大型レッカー車を呼ぶ事態に。作業員がひとり、手際よくリモコン操作で荷台を地上面までスライド下降させ、パンク車を載せる。自衛隊基地の先にあるガソリンスタンドまで移動、我々も追尾。タイヤ交換後9時40分に出発。代金19,900円をすべて、フルサポート安心プランの保険で完了。海岸歩行中初めての大きなトラブルだが、沈着・冷静に坂本さんが対応。旅の行程に支障はなかった。



レンタカー左前輪のパンクを発見



レッカー車で運ばれるレンタカー

第2回歩行の最終到着地「川内町まりんビーチ」に成田さんのマイカーを置き移動、「ふれあい温泉川内」から逆方向に川内川の遊歩道を下る。残念ながら、ダム脇から始まる対岸の遊歩道は通行止めで、しばらく左岸を歩く。途中、鉱山鉄道の線路跡の煉瓦積みが残る。5メートルほどの落差の水量ある大滝をつり橋の上から眺めながら渡り、しばらく右岸を歩く。対岸の100メートルほど直立する岩壁が素晴らしい。発電所を横に見ながら広葉樹林帯をしばらく行くと、広い河岸段丘が広がる。老人ホーム手

前の川内町の町営陶器製作施設のところで昼食休憩。ここからはじまる川内川の右岸の台地は、かつて大洪水に見舞われたが、今は整備され広大な農地となった。その先には立派な市営球場がある。小雨の中、堤防の上を歩き、14時30分目的地に到着。このあと、横垣さんの車に7人全員が乗って（?!）「ふれあい温泉川内」へ戻り、入湯。



川内川溪谷遊歩道入口にて



溪谷入口の橋から上流を眺める



溪谷の景色



川内川の右岸の台地を進む



目的地の川内町まりんビーチにて



宿泊した福寿荘の夕食



成田さん差し入れの青森県の銘酒「田酒」で2次会

(3) 3日目：10月18日(水) 天気：くもり時々晴れ 記録：笠井 浩

川内川溪谷遊歩道駐車場—<14.3 km>→佐井村 長後

7時30分 福浦の福寿荘を出発。成田さんの案内で内陸の道を車で歩行開始地点へ向かう。起伏少なく、途中、縫道石山の登山口前を通り過ぎた。



出発前に旅館福寿荘の前にて



歩行スタート前に

8時30分 川内川渓谷遊歩道起点の駐車場出発。今日のルートは海岸を完全に離れダム沿いの渓谷歩き。歩き出してからすぐ、地元の要望により伐採のあとブナの苗木が植えられたという畑集落東側の国有林の山を眺める。英断である。最近になってようやくスギの大量植樹が公害を引き起こしていると認識され出したが、広くこうした動きが広がるといいと思う。

9時05分 マタギの里の碑前で休憩。

10時55分 川内ダム。ダムカードを頂く。ダムと三開橋との間に立派なボート艇庫がある。

11時30分～12時10分 道の駅 レストランで食事をとったりして昼食休憩。ジオパーク案内板で野平一帯がカルデラの中というのを知り興味深かった。



川内ダムに向かって進む



ダムカードを頂いた川内ダム



川内ダム石碑を囲んで



ボート艇庫近くの遊歩道を下りてダム湖にて



ボート艇庫近くの展望所からダムを望む



道の駅のジオパーク案内板にて撮影



シェルター道路を進む



野平高原一本ブナ



放牧場から縫道石山を望む



留魂の碑



第2回歩行起点の長後に到着し、未歩行区間の歩行を終えて第2回歩行区間が完歩となった

12時40分 野平高原一本ブナ。13時20分 留魂の碑、228Mの標高点交差点にある、81年建立。野平開拓の苦難の歴史を皆で偲ぶ。13時40分 第2回歩行起点の長後に到着、歩行終了。



仏が浦を陸側の遊歩道から降りて散策

仏が浦を陸側の遊歩道から降りて散策してから、佐井村の民宿みやのに向かった。宿で19日からの歩行参加組4人と合流した。

4人は東京駅 10:20 発はやぶさ 17号、八戸駅 13:04 着に乘車し、八戸駅からレンタカー（トヨタルーミー）で佐井村の宿まで来た。



美しい光景に出会った



参加者全員が揃って夕食&交流会



「民宿みやの」の豪華な夕食

(4) 4日目：10月19日（木） 天気：雨 記録：森 正昭

風間浦村役場—<10.3 km>→ 大間崎下風呂温泉

朝の雨模様を見て、坂本リーダーが歩行距離を10 kmに短縮、風間浦村役場をスタート地、大間崎をゴールとした。



出発前に民宿みやのの玄関前にて



歩行スタート前に風間浦村役場前にて

<行動記録>

8時00分 車で民宿みやの出発

8時45分～9時10分 易国間にある風間浦村役場でトイレ借用、雨具着用

本隊出発、2名が車1台を目的地の大間駐車地に移動しあとから合流

10時00分～10時30分 蛇浦漁協（屋根の下で雨宿り）、古釜谷付近では砂浜を歩く

11時30分～12時00分 自動車整備工場「カーショップ ヨシ」で雨宿り・昼食休憩

むつハマナスラインから別れ、海側の道を歩く、下手浜漁港

13時15分～13時40分 横垣さんの提案により海岸でゴミ回収を実施

14時10分 大間崎着 スタート地点に置いた車を回収して下風呂温泉に移動

15時50分 この日の宿の坪田旅館着



村役場前のバス停

目的地の大間崎に向かって進む



雨宿りした蛇浦漁協

砂浜を歩いた古釜谷付近にて



花咲く海岸線を歩く



水溜りを避けて堤防に上がって進む



ゴミの回収



ゴミ回収袋はすぐに一杯になった



本州最北端の地碑にて



雨の中の歩行となり、対岸の北海道が見えないのは残念だった。1時間歩いたところで、雨が激しくなり、蛇浦漁協の屋根の下で逃げこんだ。管理人が快く雨宿りを許してくれた。漁の様子を聞くと、最近ではイカが全く取れなくなり、ヒラメが揚る程度、あとはコンブ漁と話してくれた。ちょっと顔がさみしそうだった。

この歩行隊は、海岸近くを歩くのが好きなようで、砂浜を歩く。打ち上げられたゴミの多さにびっくりした。浮き玉、漁網などの漁具関係、ペットボトルの類、木の枝やちぎれた昆布などが延々と連なる。下北の海には、対馬海流に乗ってマグロも来るが、ゴミも運ばれてくるようだ。とても「ボランティアで海岸の清掃を・・・」といったレベルではない。

12時ころになり、またドシャ降りの雨となる。「カーショップ ヨシ」の看板が出ている自動車整備工場で雨宿りをさせてもらった。あろうことか、工場の中に止めてあった車を外に出し、休憩場所を作ってくれた。下北の人々の温かさに、冷えた体もほっこりした。



夕食&交流会



坪田旅館の夕食

(5) 5日目：10月20日（金）天気 小雨 記録：笠井 初子

風間村役場着 -<9.5 km>->下風呂温泉

坪田旅館7時30分出発。風間村役場着7時45分。トイレを借りて7時55分出発。



出発前に坪田旅館前にて



国道 279 号沿いにあったバンザイの彫刻



洞窟のようなトンネルを行く



不思議な道を進んであった神社

カッパを着て傘をさして歩く。後発組の坂本さん、笠井さんは、車を置きに出発して途中合流した。菅ノ尻漁港 8 時 30 分着。杉乃尻橋 8 時 35 分。(地図地名は菅ノ尻沢、橋の銘板は杉乃尻橋) 橋を渡ってから小休憩。旧道を降りてあずまやでトイレ休憩。桑畑海岸 9 時 20 分。道路沿いに鳥居がありその奥に洞窟のようなトンネルがあり、行って見ると階段になっていて上の道路に出た。さらに上の階段を登ると 9 時 02 分、神社に出た不思議な道だった。

途中、小さな小屋のような中に女性の姿があり、話を聞くと工事車両マナーチェック中との事。

9 時 23 分、雨の中を下風呂温泉に向かって進んで行くと、道路沿いの所々に幻の大間鉄道廃線跡が現れる。ここに「鉄道が通っていたら」と当時の人々に思いを巡らせる。

海峡いさりび公園に 10 時 30 分着。あずまやで 10 時 40 分休憩とする。雨は降り続く。

下風呂温泉大間鉄道メモリアルロード足湯が出来る場所に 11 時 05 分着。お湯はなく足湯は出来なかった。10 月 18 日から来春 4 月下旬まで足湯は休止とのお知らせがあった。案内看板によると、下風呂温泉は室町時代から続く湯治場である。看板には、江戸時代に大湯と新湯の共同浴場があり、民俗学の祖と評された菅江真澄が旅を日記に綴った「牧の冬枯れ」「牧の朝露」の中に下風呂温泉を訪れた際に不思議な光景に遭遇したことや地元共同浴場を大いに好んだこと等の記載があり興味深かった。



工事車両マナーチェック中の小さな小屋にいた情勢にお話を聞く



大間鉄道廃線跡



大間鉄道メモリアルロード足湯にて

坪田旅館 11時05分着。ここでオプション観光の恐山行きに参加する人（坂本徹さん、木下さん、味沢さん、笠井浩さん、森さん）と旅館に残る人に分かれた。



当初この日は薬研温泉に泊まる予定だったが、予約していた宿が急に廃業したため、坪田旅館（坂本夫婦と笠井夫婦）と民宿菅原（森さん、成田さん、味沢さん、木下さん）に分かれ泊まることになった。下風呂温泉のお湯は大変熱かった。

(6) 6日目：10月21日（月） 天気 晴れのち曇りのち雨 記録：坂本 和子

下風呂温泉 ー<19.2 km>→ むつ科学技術館

7時30分旅館の前に集合し準備体操をして、7時40分出発、まず温泉街の入口にある地下道を見学する。今日は朝から青空が広がり、下風呂漁港の向こうに、恵山から続く北海道がよく見えている。久しぶりに朝から気分も明るく軽い。



それぞれ宿泊した民宿・旅館前にて



下風呂温泉郷の国道入口にて



恵山から続く北海道を遠望

8時、弁天崎で階段の上にある弁天神社に参拝。続いて甲崎に向かうも、途中で行き止まりとなり引き返す。アナグマに遭遇し、甲崎を回り込んだ所で浜に出る。大赤川は渡れず断念して道路の橋を渡り、8時40分大崎のちぢり浜の入口に到着する。取り付きの所が水に浸かっている為、笠井さんが流木を置いて渡れる事に。ちぢり浜は、岩が波によって削られたままの姿をした奇岩が広がっていた。岩伝いに歩いて、8時52分一旦道路に出て再び砂浜に下りる。



弁天神社に参拝



ちぢり浜の取り付き



奇岩が広がっていたちぢり浜を歩く

9時22分再び道路（R279 むつはまなすライン）に戻り、木野部岬に向かう。道端に有った「八大龍王」碑の解説によると、20世紀初頭この辺りは鮪の大漁で賑わっていたようだ。

9時50分岬手前の北見台で休憩、この頃から青空は消え雨が降り始める。この後、強くはないが一日中降ったり止んだりを繰り返すことになる。

10時40分、峠を越えいさり火橋を右に折れて、釣屋浜へ向かう。11時神社で休憩、この付近には、旧大間線の橋脚が道路と並行して残っているのを、何か所も目にすることができた。

11時30分再び浜に下り、大畑川の河口で川に沿って少し戻り12時大畑川の大橋のたもとで20分昼食。(雨なので立休み)

12時30分大きくて立派な大畑漁港と大畑海浜公園(海水浴場)を抜けて、12時57分どんよりとした小雨の中、再び砂浜歩きになる。波消しブロックの上にはたくさんのカモメが羽を休め、前方には尻屋崎がかすんでいる。



大畑海浜公園(海水浴場)にて



道端に有った「八大龍王」碑



大畑漁港



消しブロックの上のカモメ

13時15分正津川を渡るため道路の橋に戻り、13時20分優婆寺にて休憩。そこからは烏沢集落の道路を進み14時出戸川の橋のたもとで休憩し、そのまま浜に下りる事無く道路を進んで14時35分、原子力船「むつ」が一時寄港した関根浜港正面にある、むつ科学技術館でゴールとなる。

15時50分まで館内の見学と車の回収を行い、16時科学技術館を出発、途中下北駅近くでレンタカー1台を返却し、17時ホテルに到着した。

(7) 7日目：10月22日(日) 天気 雨 記録：木下 隆史

むつ科学技術館 ←21.6 km→ 尻屋崎ビジターハウス

8時20分 むつ科学技術館前出発



むつ科学技術館に向けてホテル出発前に、森さんは大湊駅から帰途へ、成田、木下、味沢、笠井（初）、坂本（和）の5名で出発。坂本（徹）、笠井（浩）の両名は、ゴールに車1台を配車し、むつ科学技術館付近に駐車場所を探してから後追い。



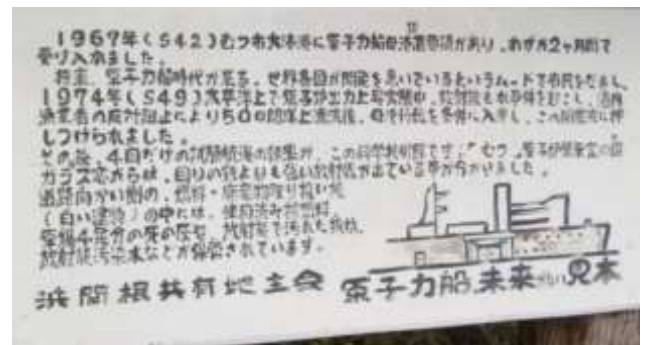
むつ科学技術館入口にて



リサイクル燃料貯蔵所脇を通過



厳重な柵と監視カメラでがっちり守られた施設



原発反対派の掲示板

8時40分 リサイクル燃料貯蔵所脇を通過、嚴重な柵と監視カメラでがっちり守られた巨大な貯蔵施設であった。

10時10分 石持漁港着、漁港で休憩。しばらくして、坂本、笠井が追い付く。漁港から、砂浜を歩く。北部海岸と呼ばれ、断崖が続く。砂岩と礫岩の地層が見事。ところどころ砂浜に海鳥が群れる。近づくと一斉に飛び立つ。

野牛港付近で道路に戻り、歩いてゆくと、11時40分 長窪稻荷神社着。ケヤキの巨木。

そこから内陸向きに歩き12時00分 スクールバス待合所に到着、昼食休憩。

あわただしい昼食の後、県道6号（むつ尻屋崎線）へ。途中、12時30分 東通村野牛川レストハウスに寄る。地元の産品を売っており、若干購入。



尻屋崎 19 kmの標識



下北ジオパーク北部海岸エリアの解説版



下北ジオパーク北部海岸を歩く



長窪稲荷神社とケヤキの巨木



長窪稲荷神社入口の鳥居とケヤキの巨木



昼食休憩したスクールバス発着待合所



若宮八幡宮まで上る177段の階段



ねぎらいの虹が出た

13時00分 野牛川沿いに海岸線へ戻る。砂浜は無く、防波堤沿いに歩く。

斐部川に突き当たるが、渡渉は断念。再び県道（県道6号むつ尻屋崎線）へ戻り、ENEOS ガソリンスタンドにて休憩。雨が強まったが、弱くなってから出発。

県道6号の旧道に入ると、右に若宮八幡宮、数人はお宮まで階段を上る。数えたところ、177段あり。一日中降ったりやんだりであったが、旧道から県道6号に戻る。完璧な虹が出た。ねぎらいの虹。久々にみる完璧な半円の虹。

セメントの大規模プラントの脇を通過、15時30分 尻屋崎公園ビジターハウスに着く。

むつ科学技術館付近に止めた車を取りに行っている間、残りのメンバーはビジターハウスで待つ。雨が激しく降る。



セメントの大規模プラント



尻屋崎公園ビジターハウス

(8) 8日目：10月23日（月） 天気 晴れ 記録：成田 茂則

尻屋崎ビジターハウス→尻屋崎灯台←<9.1 km>→尻屋崎ビジターハウス

東通村岩屋ユースエネルギー事業所近くの三差路（荷倉場）←<10.8 km>→猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場

7時35分、尻屋崎ビジターハウス前で記念撮影し、尻屋崎灯台目指して出発。



尻屋崎ビジターハウス隣の寒立馬の放牧場にて

草石で舗装道路から砂利道へ、さらに海岸線を歩く、進むにつれ風が強くなる。

9時15分、尻屋崎灯台に到着、休憩後東海岸歩きになり風も止み、コハマギクの群生を写しながら気持ちよく南下する。



尻屋崎灯台にて



本州最涯地の碑にて



東海岸歩きになり風も止む



コハマギクの群生



本州最涯地灯台から遠ざかっていく



厳しい冬にも耐えられるたくましい体格の馬「寒立馬」

社が立っている岸島を過ぎてから尻屋の集落に入り北上し、尻屋崎ビジターハウスに11時15分戻る。

車で県道172号と248号の三差路に戻り、2班に別れ坂本（徹）・坂本（和）・成田組は車で東通村岩屋ユースエナジー事務所近くの三差路へ移動して11時45分出発、県道172号と248号の三差路で12時20分合流、陽だまりの中昼食休憩。

その後、車で尻屋の集落へ行き入口を探して、素晴らしい猿ヶ森砂丘を20分程堪能。

再び車で県道172号と248号の三差路に戻り、2班に別れ坂本（徹）・味沢・笠井組は車で猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場へ向かった。残りの4人は13時40分出発、水準点を目印に猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場目指してひたすら南下し、14時45分両班交差する。

15時55分4人が猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場に到着し合流、ヒバ埋没林を見学し16時30分ホテルへ車で出発、18時30分京華で夕食交流会、至福の時を過ごす。

※私のスマホでの歩行距離は25km・39,168歩でした。



猿ヶ森砂丘の北端から見渡す



猿ヶ森ヒバ埋没林の入口の解説版にて



猿ヶ森ヒバ埋没林を見学

(9) 9日目：10月24日(火) 天気 晴れ 記録：坂本 徹

猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場←9.1 km→小田野沢漁港

8時35分 先発組は猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場を出発、後発組は8時55分出発。

9時55分 県道248号から猿ヶ森砂丘に入る分岐で、先発組と後発組が合流。

10時25分、防衛装備庁の施設のフェンスの外を歩いて猿ヶ森砂丘に出る。

日本最大級の砂丘である。鳥取砂丘が有名であるが、青森県の猿ヶ森砂丘も最大級である。しかし、ここには実弾の弾道試験などが行われる自衛隊の下北試験場があるため、ほとんどが立入禁止区域となっている。観光地として立ち入れる砂丘は鳥取砂丘が最大であるが、民間人の入れない砂丘を含めると猿ヶ森砂丘が最大級であるとのこと。

砂丘を裸足で歩き、浅い川も裸足で渡渉して、猿ヶ森砂丘の一部を堪能した。更にキュキュと歩くたびに鳴く砂も体験できた。



出発前に3泊したホテル前にて



歩行出発前に猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場にて



防衛装備庁の入口



施設のフェンスの外を歩いて猿ヶ森砂丘へ



猿ヶ森砂丘の南端から北側を見渡す



猿ヶ森砂丘を堪能

小田野沢漁港から猿ヶ森砂丘を遠望

11時20分、小田野沢漁港到着、防波堤で昼食休憩。

12時25分、猿ヶ森ヒバ埋没林駐車場にある車を回収し、小田野沢漁港を出発。

13時15分～13時50分、六ヶ所原燃PRセンターに立ち寄って見学した。

新青森駅レンタカー営業所に15時55分到着。レンタカーを返却し、お世話になった成田さんとお別れして、新青森駅へ。お土産と夕食を買って、新青森駅17時22分発はやぶさ40号に乗車・帰途について。



六ヶ所原燃PRセンターにて



新青森駅レンタカー営業所にて成田さんとお別れ



新青森駅北口入口にて

8. 参加者の感想

【笠井 浩】～やっぱり青い海と青い空を眺めて歩くのが一番

海岸線歩行参加4回目。4回目にして初めてしっかり雨に降られた。やっぱり青い海と青い空を眺めて歩くのが一番だと思った。それでもジオパークの見どころは楽しめたし、大間鉄道跡もその歴史とともに興味深かった。

今回のルートは、原発関連施設や自衛隊施設があって長い区間海岸線を直接歩くことができなかった。迷惑施設、不人気施設がまとめて集められているかのようだった。かつてのように絶対安全とは言わなくなった原発である。反対派の看板は小さかったが、今後も依存していくのであれば万が一の時に被害者面などしない覚悟が必要だよと歩きながら思った。むつ科学技術館は多額の税金を投じたであろう原子力実験船の成果が、どのように展示されているのか興味があったが、クルマ回収のため見学する時間がなく残念だった(笑)。

【笠井 初子】～晴れている時歩ける幸せ、景色が見える幸せ、一つ一つが小さな幸せ喜びに

青森の海岸線歩行は4回目の参加でした。

出発前の天気予報は雨の多い予報だったので、雨を想定していましたが、参加した当日から雨に降られ、連日の雨でずぶ濡れの中歩くのは初めての経験でした。それでも、一日中降られなかったり、雨は半日だったり、朝から降られなかったりする日もあり、晴れている時歩ける幸せ、景色が見える幸せ、一つ一つが小さな幸せ喜びとなり「ありがたい」と思えるようになりました。

突然大きな2重の虹が現れて、晴れた空は美しく、まるで歩いたご褒美を頂いたようで嬉しかったです。雨の経験も悪くないと。そんな出来事を帰ってから職場の人に話すと「青森で悟りを開いたね」と笑われました。

印象に残ったのは、猿ヶ森砂丘の砂浜です。浅い川の渡渉が裸足で渡れて気持ちよかった。キュキュと歩くたびに鳴く砂が楽しかった。

沢山の楽しい思い出を有難うございました。坂本さん、皆様お世話になりました。



【味沢 俊治】～風の音を聞き地域の匂いを感じながら進む、歩く旅ならではの経験だった

今回で津軽と下北という青森県の二つの半島の海岸線を歩き終えた。ともに本州の北端の地であるが、下北半島には津軽にはない近代日本の苦渋の歴史が積み重なる。たとえば、満蒙開拓少年義勇軍や樺太からの引揚者が開拓し、やがて放棄された安平カルデラの牧草地。開通しなかった旧大間線のアーチ橋やトンネルは、「徴用」の名のもとに故郷から連れてこられた朝鮮人によって建設された。戦後、解放された彼らを乗せて大湊から出航した浮島丸は、若狭湾で機雷に衝突し、故郷の土を踏むことは無かった。今はひっそりとたたずむ、原子力船「むつ」の母港と原発関連施設たち。同じ北の果てでも津軽は外ヶ浜として、本州の北端の地位を歴史的にも与えられ、いまは青函トンネルで北海道と結ばれる。しかし、下北はどん詰まりの日本社会の忘れられた沈殿物がたまる場所である。使用済みの核燃料の置き場所が六ヶ所村になろうとしているように。



そんなことを考えながら歩き続けた。それでも、人々の確かな営みは村々にある。恐山を中心とした巡礼のための札所が点在し、集落に入れば仏様を祀る小さなお堂が人々に大切に守られている。引き戸を開ければ、そこから村人たちの読経が聞こえてきそうである。それは、スケジュールに追われることなく、風の音を聞き地域の匂いを感じながら進む、歩く旅ならではの経験だった。

またひとつこの旅が好きになった。リーダーの坂本さん、青森労山の成田さんにはとくにお世話になった。そして、自由気ままな同行者を許容し見守ってくださった皆さま、ありがとうございました。

【森 正昭】～「日本再発見の旅」の知見となった

先頭に行く青森勤労者山岳会の成田さんと連れの皆さんの健脚には参った。普段のんびり歩いている自身には速すぎて、厳しいものがあった。

「むつハマナスライン」から別れ、草むらを左手に見て歩いていると、我々を何者かがじっと見ている。シカか？ それにしては黒い体に細い角、カモシカだった。山奥にしかいないと思っていたのでびっくりした。後日、ネットで調べると、カモシカの北限は下北の地で、ヒバ林がその生育を助けているとあった。なるほど！

夜、青森勤労者山岳会の方々と話す機会があった。このような歩く旅へ参加してくれる思いや日々の活動が聞けた。

成田さんは、遭難事故の研究をしており、2000年に発生した「大日岳遭難事故」のことも知っていたのにびっくり。「主催側の事故調査報告書、都立大学ワンゲルOB会の調査報告も見ました」とのこと。

せっかくの機会だったので、3人の方々から青森の自然三景について聞いてみた。後日知らない場所がなん箇所もあったのでネットで検索、プロしか知らない秘境が垣間見られた。

- ・ 八甲田山の樹氷、ブナ林の芽吹きと残雪、城ヶ倉大橋からの紅葉・・・この辺は納得
- ・ 岩木山のいろいろな角度から見る姿、桜の季節・・・この辺も納得
- ・ つるべ落とし峠の紅葉、奥入瀬川支流にかかる「松見の滝」紅葉、南八甲田逆川上流・横沼の紅葉・・・機会があれば行ってみたいが。

追加 「幻の鉄道」

風間浦村・下風呂温泉付近には、鉄道敷設工事が行われていた遺構が残っている。ネットで見ると、大正から昭和にかけて、北海道の開拓や国防のために、陸奥から大畑を經由して大間までの鉄道開発が計画されたとある。大畑から大間近くまでの工事が進んでいたが、昭和18年に資材不足から中断となったとのこと。

もう少し詳しい話はどなたかが語ってくれると思うので、省略。
そんなことがあったのかという、「日本再発見の旅」の知見となった。

【木下 隆史】～人間が本来もっている五感がよみがえってきました

大学生の時、青函連絡船に乗るために夜行列車を降りて以来、青森県には足を踏み入れていませんでした。それだけに、歩行前にも、青森に行くということだけで、何かワクワクするものがありました。特に下北半島は、なかなか行く機会がない場所なので、楽しみにしていました。

地元愛に溢れる横垣さんから聞いた、青森の現状、歴史的経緯、裏話は、とても興味深く、いままで知らなかった日本の実情が見えてきました。また、海岸線の、ほんの一角をゴミ拾いしただけで、大量のゴミが集まったことに、日本の海岸の危機的状況を認識しました。



前半は、雨が続き、ひたすら歩いている時間も長かったのですが、あとで思い出せば、それはそれで良い思い出として印象に残りました。最後の2日は好天に恵まれ、特に尻屋崎を過ぎた太平洋側の広い砂浜、青い海と空は圧巻でした。しかも、他に人がいなく、素晴らしい自然、広い空間を独り占めしているようです。こんな経験はめったにできるものではありません。砂浜を裸足で歩く足の感触、水の冷たさ、波の音。普段の生活の中で、すっかり忘れていた、人間が本来もっている五感がよみがえってきました。このような経験、そして楽しい時間を共有して下さった皆さん。本当にありがとうございました。



【坂本 和子】～尻屋崎を過ぎた太平洋側の砂浜は非常にきれいで穏やかで、鳴き砂まで体験

海岸歩き初日から連続4日も雨に降られたのは、初めてのことだ。9月の北海道最終日に「雨の日の海岸歩きを楽しむのは中々難しい」と感じたばかりだったので、1日分を2日に分けて、1日の歩く距離を半分にしてくれたのは、せめてもの救いだった。後半2日はようやく晴天に恵まれて、陽の光のありがたみと今までの運の良さをしみじみと実感させられる。

尻屋崎を境に、津軽海峡から太平洋へと海域の呼び名が変わると同時に、風や波や海岸の様相まで大きく変化したように感じた。本州ではここでしか体験できない貴重な場所である。特に尻屋崎を過ぎた太平洋側の砂浜は非常にきれいで穏やかで、鳴き砂まで体験することができた。

私は青森へ出発する前に「ブラタモリ」の下北編を見ていったので、下北半島の成り立ちや風間浦村のふのりの漁場等、いつもより興味深く見て歩くことが出来たように思う。特に北部海岸の巨大な地層の断崖は、気の遠くなるような太古の時代からの営みがぎゅっと圧縮されて、今日の前に広がっているという、贅沢で不思議な世界に迷い込んだような気分になった。



ひどい雨の中、快く雨宿りをさせてくれた地元の人々の温かさや、津軽海峡の唸るような波の中、腰まで水に浸かりながら黙々と昆布を拾っている漁の人達の強さも垣間見た。

今回も色々なメンバーと一緒に歩くことが出来、浜を歩くもよし、道を進むもよし、各々の目指すものに向かって楽しく、又仲間同士の交流を深めながら無事ゴール出来たことに感謝します。

【成田 茂則】～感動の猿ヶ森砂丘！

初体験1、4回目にして雨に当たる、それも8日間の内半分の4日も。

初体験2、今まで縫道石山登山時通り過ぎていた川内溪谷を少し紅葉は早かったが歩いた。

初体験3、23日24日と猿ヶ森砂丘を歩いたこと。

特に24日は、砂がきめ細やかで、歩くとキュッキュッと鳴いた。

厳冬期、気温の低い高山で雪を踏みしめる時に聞いた音と同じ、砂丘で聞けたのには驚いた、その広さと相まって感動した。

多くの人に見せてやりたいと思った。

わざわざ車を出して我々に雨宿りの場を提供してくれた下北人との交流は、温かい人情を実感した有意義で楽しい思い出になりました。

今回もまた、坂本リーダーはじめ参加者の皆様には親切にいただきました。厚く御礼申し上げます。

【對馬 淑子】～充実の下北歩行

1・2日目は川内川沿いを歩いた。溪流は紅葉が始まって綺麗。が気になることもあった。せっかく造った立派な魚道を魚は通らず、滝まで行ってしまっていて弱っているという。横垣さんが言うように、魚の習性に合う魚道に造り替えてほしい。県道253号は立派な道路で交通量も多い。けれど以前は溪流沿いに細い道と森林軌道があり、度々災害があったと川内ダムの方が教えてくれた。ダム湖を過ぎて野平まで来ると、道端の見過ごしそな処に『留魂の碑』があった。碑文を読んで驚いた。ダム建設に伴ってここを去る決意をした36名の思いが記されていた。艱難辛苦の末、開墾したこの地を離れた人たちの重い決断を無駄にはしてはいけないと思った。

仏ヶ浦では神秘的な光景に出会った。真っ赤な太陽が奇岩「如来の首」の真上に差し掛かり、まるで蠟燭に火が点ったようだった。

他にも道すがら、見たり聞いたり考えさせられたり、充実の2日間だった。今回も大変お世話になりました。

【辻村 眞佐子】～下北人の親切に感謝

下北は、ジオパークという年代の違う古い地層の自然の豊かな所と新聞で読みました。

奥入瀬溪流や薬研溪流は行きますが、川内川渓谷は初めてです。初日渓谷を歩行中、古いタイル造りの一部を発見、何者かしばらく会話が膨らみました。

次は野平カルデラ歩行中、碑を見つけ読むと、旧満州から樺太に渡り終戦でこの地に来た。「出身県の違う集団が力を合わせ開拓に希望が見えた頃、川内ダム建設計画が出され、耕作をやめ土地を離れなければならず仲間と別れた」と書かれていた。時の国策により人生を翻弄された人達を思うと切なくなりました。

海岸歩きでは線状降水帯に当たり、1回目は漁港で雨宿り、2回目は自動車修理工場を開放してくれて昼食をとることが出来ました。出会いと親切を受け感謝の思いです。

まるで『奥の細道』下北バージョン松尾芭蕉の世界、薄れる記憶の中、印象に残っています。

【横垣 成年】～トラブルに冷静に対処！

大湊のホテルに到着し車を降りたら、なんとレンタカーが「パンクです」と。「予定通りにいかないのでは」と思ったが、結果は余裕で宿に到着。トラブルに感情を乱すことなく適切に対処し、前に進む皆さんには感銘です。

全体として歩行距離が短く、「楽(らく)したかな」という歩行でした。川内溪流の歩行では、「もっと美しい紅葉が楽しめたのに」と残念でした。温暖化の影響ですね。また海岸のゴミ拾いに今回もご協力いただきありがとうございました。温暖化とゴミ問題は現人類の最大の課題です。

海外を歩いたり自転車で横断したりした方は、強靱な精神の持ち主です。知り合いになれて光栄でした。いわゆるツワモノです。「夏草や ツワモノどもが 夢の跡」(松尾芭蕉)。夢をつかんだツワモノですね。また次回会いましょう。